

# 甘やかして大丈夫？

## わがままになたりしない？

**過保護**  
子どもが望んでいることに応えるのが過保護

何がしたいの？

**過干渉**  
子どもが望んでもいないことをやったり、命令ばかり下しているのは過干渉

あはしなさい  
こうしなさい  
やめてあげ

**放任**  
無関心なのは放任。望みを無視している過干渉と放任は、子どもをわがままにします

早くしなさい  
まだかな？

**自分の気持ちを大切にされた子は、人の気持ちも大切にできる子になります。**

「甘やかす」とか「過保護」という言葉にはいいイメージがなく、「親が甘やかすからわがままな子どもが抱えている」ともよくいわれます。

でも、わがままになる原因は、甘やかしたからではありません。大人が子どもの声を聞くことができず、十分に甘えさせてあげなかったからです。

子どもは、自分の気持ちをよく聞いてもらうと、人の言うこともちゃんと受け入れるようになります。「うしろ向き」と言われて、「素直に」言うようにと叱るには、「自分も「うしろ」と受け入れられた経験をしているからですね。

**甘**  
やかすって  
こんなこと！

話しかける。わからなくてもたくさん話しかける。

言葉がわからない赤ちゃんに声を出して話しかけると、不思議なことにお母さんの孤独もいやされるのです。「おむつが新しくなって気持ちいいですね」と話しかけると、気持ちいいという子どもの喜びを共有することになります。

「気持ちよかったね。とりかえましょうね。」

**ギョッと抱きしめる。笑顔で抱きしめる。**

ギョッと抱きしめると、どんな言葉で表現するより、たくさんの思いが伝わりますね。もちろん笑顔を忘れずに……。

子どもから求められていないのに抱きしめることだってアリです。うれしいときも、泣いているときも抱っこ。子どもが感情を爆発させて止まらなくなったときは、背後から包み込むように抱っこします。

ママはだいたい好き！

ママなんか嫌いだぞん！

甘

やかすつて  
こんなこと!

お話を聞く。  
心の声も聞く。

ママに何かを話そうと一生懸命な  
子どもの言葉。さえぎらずにゆっ  
くり聞きましょうね。さみしい気  
持ち、悲しい気持ち、怒りや不満  
も「そうなの。悲しかったね」「さ  
みしかったね」とまずはぜんぶ受  
け入れます。すると、子どもの心  
のモヤモヤは消えていきますよ。



いっしょに笑う。  
手をつないで歩く。  
いっしょに遊ぶ。

親のやることを子どもたちはよく  
見ていて、そして真似をします。  
親子で手をつないで歩き、いっし  
よに遊び、いっしょに笑う……。  
子どもが一人で歩くことを望むま  
では、手をつないでいっしょに歩  
きましょう。お風呂の入り方だっ  
て、親を見ながら覚えていきます。



待つ。  
のんびり待つ。

子どもってどうして真つすぐ歩かないの  
でしょう。あちこちらに寄り道しては、  
何かおもしろいことを見つけます。それ  
も大人の目から見たら、どこがおもしろ  
いのかよくわからないことも多い。  
時間がないときはともかく、待てるとき  
は待つ。これは甘やかして育てることの  
基本中の基本。効率よく動いていた仕事  
場とは時間の流れがまったく違うので、  
待つことが苦手な人は多いのです。  
簡単なようでじつはむずかしい、甘やか  
しの一つです。



不安な気持ちを受け止める。

「可愛い」と立ちすくんだ子どもに、「弱  
虫ね」なんて言っていないですか。「こわ  
いね〜」とその気持ちを受け入れて、子  
どもと不安感を共有して、それから「大  
丈夫よ」と守ってあげる。守られている  
という安心感とともに子どもは「こわさ  
を一つひとつ克服していきます。

「おつちめんね。 こわいね。 ママがいるから 大丈夫。」



守られることで、  
子どもは「自分は大切な存在なんだ」  
とわかります。



過保護にしてあげると時期は子どもが逆のならばいつまでも  
……。少なくとも三歳までは「厳しくしつけなくち」などと  
考えず、思う存分、過保護にしてあげていいです。  
「過保護」とは、文字のとおり、「過剰」に「保護」してあげ  
ること。子どもが望むことを受けてあげる以上にしてあげると、  
子どもは深い安心感とともに成長します。  
安心感とは人間の心の土台になるものです。親から愛されてい  
るということを確認しながら、子どもたちは「ホクは大切な  
存在だ」とか「わたしは生きていていいんだ」という気持ち  
を育んでいくからです。





